

研究課題名	食道胃静脈瘤に対する酸分泌抑制の臨床的意義に関する研究
研究機関名	武蔵野赤十字病院
研究責任者	所属 消化器科 氏名 中西 裕之
研究期間	(西暦) 実施許可後 ～ 2030年3月31日
研究の意義・目的	食道胃静脈瘤に対しEISやEVL等の内視鏡的治療後の長期経過中に食道胃静脈瘤破裂をきたす症例が散見され、その予防策として β -blockerの内服等の門脈圧降圧療法などの有用性が期待されているが、いまだ一定の見解に至っていない。一方で、食道静脈瘤に対してEVLを施行後にPPIを長期内服することで、食道静脈瘤出血等の複合イベント発生を抑制するとの報告がある。また、逆流性食道炎患者における食道出血のリスク因子として肝硬変、食道静脈瘤、抗血栓療法が挙げられている。これらのエビデンスから、食道静脈瘤破裂と酸逆流の関連が示唆されている。今回我々は、逆流性食道炎と食道静脈瘤の関連に注目し、PPIやPCAB投与の臨床的意義について検討することを目的とした。
研究の方法 (対象期間含む)	研究対象期間は2012年4月1日～2030年3月31日です。研究実施許可後から2030年3月31日までに、武蔵野赤十字病院において、食道静脈瘤に対して内視鏡的治療を行った患者さんに対して食道静脈瘤破裂、生存と関連する因子の解析を行う。
目的及び利用方法 ①試料・情報の利用 他機関へ提供される場合 (匿名加工する場合はその方法含む) ②利用し、又は提供する試料・情報の項目 ③利用する者の範囲 ④試料・情報の管理について責任を有する者の氏名又は名称	①保険診療内の通常の診療において、取得された・あるいは取得される予定の診療情報(既存情報)を収集・分析します。プライバシー確保のため、患者さんが特定できないようにデータを処理した上で研究解析を行います。また、研究結果を公表する際には、患者さん個人が特定されることはありません。 ②診療情報：患者背景(年齢、性別、身長、体重、併存疾患、生活歴)、悪性腫瘍患者の場合：腫瘍因子、治療方法、血液学的検査結果、治療前および治療中・治療後画像検査結果、投薬状況、予後・転帰等 ③当院研究分担者 稲田賢人、松本浩明 代表者 中西裕之 ④武蔵野赤十字病院 消化器科 中西裕之
問合せ先	当研究に自分の試料・情報利用を停止する場合等のお問い合わせ 〒180-8610 東京都武蔵野市境南町1-26-1 武蔵野赤十字病院 所属 消化器科 氏名 中西裕之 TEL：0422-32-3111 (代表) FAX：0422-32-3525